

■2017年センター倫理本試験分析

59.0% 61.0%

大問	全国 河合塾	講座	問	講座 正答率	正解	自己 解答	配点	長生 現役 正答率	全国 正答率	全国 講座 差	
1 青年と現代	58.1%	64.2%	1	67	1		3	31	29	38	D+
			2	33	4		3	31	31	2	D+
			3	100	8		3	75	76	24	M
			4	58	4		2	88	77	▲19	M
			5	67	3		3	88	82	▲15	E
			6	67	3		3	63	64	3	M
			7	83	2		3	56	65	18	M
			8	33	6		3	69	37	▲4	D+
			9	67	2		3	63	62	5	M
			10	67	1		2	63	58	9	M
2 思想の源流	60.1%	63.8%	11	58	3		3	88	71	▲13	M
			12	83	2		2	75	75	8	M
			13	8	7		3	56	40	▲32	D
			14	67	3		3	69	58	9	M
			15	83	2		3	56	56	27	M
			16	42	2		3	56	38	5	D+
			17	100	4		3	94	78	22	M
			18	50	1		2	38	40	10	D+
			19	83	4		2	100	86	▲3	E
3 日本思想	59.0%	53.7%	20	58	1		3	69	65	▲7	M
			21	67	3		2	100	84	▲17	E
			22	50	7		3	75	51	▲1	D
			23	58	2		2	38	31	27	D+
			24	50	2		3	81	70	▲20	M
			25	50	1		3	75	63	▲13	M
			26	33	5		3	25	24	9	D+
			27	50	4		3	94	72	▲22	M
			28	67	1		2	81	72	▲5	M
4 西洋思想	60.7%	60.8%	29	75	1		2	81	82	▲7	E
			30	58	4		2	69	62	▲4	M
			31	25	5		3	13	13	12	D+
			32	75	2		3	94	72	3	M
			33	50	1		3	56	56	▲6	M
			34	83	3		3	100	80	3	E
			35	50	6		3	44	50	0	D
			36	67	2		3	50	51	16	D
			37	64	3		2	88	81	▲17	E

2017年センター一本試験 解答と解説

提出者 12 名

受講者平均 60.0
 全国平均 54.66 (標準偏差16.05)
 長高卒業生平均65.8(17人)

1	D+	
40	D	difficult
55	M	middle
80	E	easy
90	E+	

第1問 標準 《芸術とテクノロジー》

問1 1 正解は①

＜SOL（生命の尊厳）とは、生命に絶対的な価値を認める立場＞

①適当。この立場によると、人間の意思によって死を早める安楽死や尊厳死は認められない。

③不適。従来の医療はSOLを重視する立場から、延命治療を目的としてきたため、延命治療を望まない患者の意思が尊重されないこともあった。

＜QOL（生命の質）とは、患者の生活の質を重視する考え方＞

②不適。従来の医療では、医師が治療方針を一方向的に決定するパターンリズムが見られたが、近年、QOLの考え方が広まり、患者の自己決定権が尊重されるようになった。

④不適。生命に「絶対的な尊厳」を認め、「生命の価値に優劣の差」は存在しないという考え方はSOLの説明になる。

問2 2 正解は④

ア。正。小此木啓吾は、大人になることを拒否して社会への参加を猶予されている状態（モラトリアム）にとどまろうとする青年をモラトリアム人間と呼んだ。

イ。誤。「小さな大人」の説明が誤り。フランスの歴史学者アリエスは、『〈子供〉の誕生』において、中世ヨーロッパでは、子どもは大人とともに仕事や遊びをする「小さな大人」として扱われていた、と論じた。

ウ。誤。青年をマージナル=マン（境界人）と呼んだのはアメリカの心理学者レヴィン。アドラーは劣等感に注目する個人心理学を唱えたオーストリアの精神科医。

問3 3 正解は⑧

ア。イタリアルネサンス期の画家ボッティチェリについての説明。

イ。水墨画を大成した室町時代の禅僧雪舟についての説明。

ウ。20世紀を代表するスペインの画家・彫刻家ピカソについての説明。

セザンヌ、ゴーギャンは、フランスの後期印象派の画家。

尾形光琳は江戸時代中期の画家で、装飾性豊かな屏風絵が有名である。

問4 4 正解は④

①不適。自分の感情とは正反対の行動をとる反動形成の例。

②不適。欲求が満たされないときに代替りのもので欲求を満たす代償の例。

③不適。自分の失敗をもっともらしい理由をつけて他者のせいにする合理化の例。

④適当。問題を解決せずに状況から逃れようとする逃避の例として適当。

問5 正解は③

- ①不適。当てはまると回答された割合を表す数値を低い順に並べると、20～29歳、30～39歳、40～49歳はエ→ウ→イ→アであるが、50～59歳、60歳以上はエ→イ→ウ→アである。
- ②不適。項目アと項目エの間の数値の差は、20～29歳(44.7)、30～39歳(54.2)、60歳以上(56.9)、40～49歳(62.6)、50～59歳(67.3)の順に大きくなる。
- ④不適。30～39歳の項目ウの数値(52.5)は項目エの数値(26.6)の2倍よりも低い。

問6 正解は③

- ①不適。「自分と異質な人を憎悪」することについては資料文で触れられていない。
- ②不適。「自分以外の人が自分と同等であることを憎悪するようになる」のではなく、逆に「平等への愛着」が増大する。
- ③適当。資料文では、民主化が進展して境遇の平等が進むと、自分と「同等の人間に支配されるのを忌避」して、「強大な権力」を支持するようになる心理について論じている。
- ④不適。「自己と他者の差異を手がかり」にするのではなく、「差異をみることは耐え難くなる」ため、隣人が自分と同等であることを望むようになる。

問7 正解は②

持続可能な開発とは、将来世代の利益を損なわず、現在世代の欲求を満たす開発のあり方を示した理念(②適当)。必ずしも「現在世代の」「欲求の充足をできるだけ抑制」する必要はないが、「高い経済成長率」が維持されるわけではない(①不適)。世代間倫理とは、現在世代が将来世代の生存に対し責任を負うという環境倫理学の考え方。両世代が「相互に責任や義務を負わなければならない」(③)、「現在世代」が「将来世代に対して責任を負う必要」がない(④)というのは誤り。

問8 正解は⑥

- a. キルケゴールは、ただ一人で神と対面する単独者を真の実存としてとらえた。超越者はヤスパースの概念で、世界のすべての現象を包み込む存在のこと。
- b. フランクフルト学派のアドルノやフロムは、ファシズムを支えた大衆の性格を分析し、強者に服従し弱者を蔑視する態度を権威主義的性格と呼んだ。全体主義とは、個人よりも国家を優先させる政治思想。

c. オランダの歴史家ホイジンガは、遊びから文化を作り出す人間を遊戯人(ホモ＝ルーデンス)と呼んだ。

工作に人間の本質があると考え、人間を工作人(ホモ＝ファーベル)と名づけたのはフランスの哲学者ベルクソン。

問9 正解は②

①不適。フランスの社会学者ボードリヤールによれば、消費者は「有用性の観点から」ではなく、他者との差異化のために商品を購入する。

②適当。リップマンはアメリカのジャーナリスト・政治評論家。メディアが情報を操作することで世論が一定の方向に導かれる危険性を指摘した。

③不適。アメリカの社会学者ブーアスティンは、メディアが報道する「本当らしい」出来事を擬似イベントと呼び、視聴者はそれを基準に現実を見るようになると説いた。視聴者がメディアの情報に「関心をもたなくなっている」という部分が誤り。

④不適。カナダのメディア学者・英文学者マクルーハンは、メディアが人々の思考に大きな影響を与えてきたことを論じた。

問10 正解は①

①適当。Aの3番目の発言から、Aはテクノロジーに頼ることについて否定的であるとわかる。また、他人に頼らず、自力で頑張った人間が芸術家になれるというAの2番目の発言から、「芸術作品の優劣を左右するのはもっぱら作り手」であるという内容も適当。2文目の後半は、5番目・6番目の発言に沿っている。

②不適。Aの4番目の発言から、「他者と意見を交換し合うことには積極的な意義を認めない」という部分が誤り。

③不適。Bは、情報の受け手が作品の作り手になる可能性を期待している(Bの最後の発言)が、3番目の発言から、多数に受け入れられればそれでよいと考えており、「少数意見」に注目しているわけではないと判断できる。

④不適。Bの3番目の発言から、Bが「真の芸術」に関心をもっていないことがわかる。

第2問 やや易 《よりよき生の模索》

問1 正解は③

①不適。ソクラテスは、金銭や地位よりも魂のよさを重視した。徳をそなえた魂をもって生きることのうちに真の幸福があるという考え方を福德一致という。金銭

の欲求の充足について説いているわけではない。

- ②不適。「利子を得ること」はイスラーム法によって禁じられている。
- ③適当。『旧約聖書』「出エジプト記」に、モーセが神から十戒を授かったことが記されている。十戒の中に「盗んではならない」「隣人の家を欲してはならない」という規定がある。
- ④不適。ブッダは肉体に苦痛を与える苦行を否定し、心の安らぎを得る道を説いた。

問2 12 正解は②

- キリスト教会最大の教父アウグスティヌスは、原罪を負った人間が救われるのは、神の無償の愛である恩寵によると説いた。また、教会を地上における神の国の代理人と位置づけ、教会の権威を確立した(②適当)。神の恩寵は、一方的に神の側から与えられるものであり、信仰(①)や善行(③)によって得られるものではない。
- ④不適。贖宥状の販売を批判したのは、ドイツで宗教改革を行ったルター。

問3 13 正解は⑦

- ア. 誤。イスラーム教ではムハンマドが最後の預言者とされているので、ムハンマドの後継者であるカリフは預言者ではない。
- イ. 誤。ウンマとは政治と宗教が一体となった共同体のこと。
- ウ. 正。イスラーム教では、イエスも預言者と位置づけられている。

問4 14 正解は③

- ①不適。ウパニシャッド哲学では、真の自己であるアートマン(我)と宇宙の根本原理であるブラフマン(梵)が一体となる梵我一如を悟れば解脱できるとされる。アートマンを捨てるわけではない。
- ②不適。紀元前6世紀頃、バラモン教を批判する自由思想家たちがあらわれたが、その中で有力な6人を仏教の立場から六師外道と呼んだ。
- ③適当。ウパニシャッド哲学で説かれた輪廻転生の説明。
- ④不適。バラモン教は多神教なので「唯一なる神」という記述は誤り。

問5 15 正解は②

- a. ストア派の、すべての人間は理性をもつ点で平等であるという世界市民主義(コスモポリタニズム)の思想は近代自然法思想の源流の一つになった。地球全体主義とは、地球を最優先する環境倫理学の概念。
- b. 自然法とは人間本性に基づいた普遍的な法。これに対して人為的・歴史的に制定された法を実定法という。

c. 「神を超越的な一者(ト=ヘン)として捉え」たのは、新プラトン主義のプロティノス。

セネカはローマ時代のストア派の思想家。

問6 [16] 正解は②

①不適。ヘラクレイトスは、万物の生成変化の中にロゴス(理法)の働きによる「調和した秩序」があると考えた。

②適当。パルメニデスは、「在るものは在り、在らぬものは在らぬ」と述べて、在らぬものを前提とする「変化や生成」を「見せかけ」にすぎないと否定した。

③不適。プラトンは、世界を現象界とイデア界に分けて二元的にとらえたが、イデアは理性によって認識できると説いた。

④不適。ローマ皇帝マルクス=アウレリウスはストア派の哲学者で、『自省録』を著した。原子論は自然哲学者のデモクリトスなどが唱えている。

問7 [17] 正解は④

資料文では、物、親族など、異なるものに対してそれぞれ異なる親密さで接するべきと説き、墨家の兼愛説を批判した「昔の儒者の考え」を正しいと評価し、「土や泥をも仁しむ」ような「今の儒者の考え」は、万物のあり方は様々であるという天主(造物者)の意志に逆らうものであるとして批判している。よって④が適当。

①墨家の思想を正しいとする、②昔の儒者の考えが間違っているとする、③今の儒者の考えが正しいとする、という点がそれぞれ誤り。

問8 [18] 正解は①

①不適。孔子は「祖先に対する祭祀儀礼」を「礼」の起源として重視している。

②・③適当。儒家の仁とは、家族の親愛の情を基本として他者にも広めたもの。

④適当。朱子学では、自己を修めることで、家庭が和合し、国家が治まり、天下が平和になる(修身・齊家・治国・平天下)と説かれた。

NOTE 仁のあらわれ方

孔子	孝(親への愛)、悌(年長者への恭順)、忠(まごころ)、恕(思いやり)、信(他者への誠実な心)
孟子	親(父子)、義(君臣)、別(夫婦)、序(兄弟)、信(朋友)

問9 [19] 正解は④

本文では第2段落で「差別の残る現実社会の次元を超えた平等を説き、よりよい生のあり方を提示する思想」としてキリスト教・イスラーム教・仏教が、第3段落で

「社会を構成する者たちの役割分担を考え、調和のとれた理想的な社会を模索する思想」としてプラトン・孟子が紹介されている。これらをまとめた④が適当。

- ①不適。2文目の記述が誤り。いずれの思想も現実社会の中でよりよい生を模索しているの、目標が「この世では実現できるはずもない」とあきらめたり、その実現が「現実を超えた世界でのみ可能になると説かれていた」という記述は誤り。
- ②不適。キリスト教・イスラーム教・仏教は、「現実社会の貧困や差別」が残る中でどうすれば救済されるかを説いた。よって「現実社会の貧困や差別を根本的になくさない限り、救済は成立しない」という記述は誤り。
- ③不適。本文第3段落では「民を虐げる政治を批判した」孟子の王道政治が紹介されており、神や統治者に無批判に服従すべきという2文目の記述は誤り。

第3問 標準 《日本における外来思想の受容と展開》

問1 20 正解は①

日本に仏教が伝来した当初、仏は外国から来た神として あだしくにかみ 蕃神と呼ばれた。以後、日本では神仏習合が一般的となり、平安時代になると、「神は仏が人々を救済するために現れた仮の姿であるという考え方」(本地垂迹説)が説かれるようになった。よって①が適当。

- ②・③不適。②「仏はアマテラスが人々を教化するために現れた化身であるという考え方」、③「仏は神が人々を守護するために現れた仮の姿であるという考え方」は反本地垂迹説の説明。この思想が見られるようになったのは鎌倉時代末期である。また、アマテラスは八百万神の一柱であって「唯一絶対の貴い神」(②)ではない。
- ④不適。仏と神を「対立する存在」とする考えは、日本では一般的になっていない。

NOTE 本地垂迹説と反本地垂迹説

本地垂迹説 (①)	反本地垂迹説 (②・③)
本地 (本体) 垂迹 (現れ) 仏 → 神 姿を変える	垂迹 本地 仏 ← 神 姿を変える

問2 21 正解は③

- ③適当。「一切衆生 悉有仏性」は、生きとし生けるものはすべて仏性をもち成仏できるという大乘仏教の根本精神。最澄はこの教えを強調した。
- ①は源信が『往生要集』で説いた教え、②は真言宗の空海の教え、④は夏目漱石の言葉。

問3 [22] 正解は⑦

- ア. 誤。法然は、「身分や能力」に関係なく、念仏を唱えれば誰もが往生できると説き、浄土宗を開いた。
- イ. 誤。公案とは、臨済宗の修行法で、悟りに到達させるために師が弟子に与える問いのこと。道元はこれを否定し、ただひたすら坐禅に打ち込むこと(只管打坐)を説き、曹洞宗を開いた。
- ウ. 正。栄西が開いた臨済宗では、坐禅し公案に取り組むことを修行方法とし、「戒律の遵守」を強調した。また栄西は、禅の修行が鎮護国家に役立つことを『興禅護国論』で説いている。

問4 [23] 正解は②

- ①不適。「時期・場所・身分に応じた道徳的実践」(時・処・位)を強調したのは日本陽明学の祖中江藤樹。
- ②適当。山崎闇斎は「敬」と義を強調した。また、朱子学と神道を結びつけて垂加神道を創始した。
- ③不適。対馬藩に仕え朝鮮外交を担当した雨森芳洲についての説明。貝原益軒は本草学の研究で知られる。
- ④不適。佐久間象山の「東洋道徳、西洋芸術」という言葉は、東洋の伝統的精神のうえに西洋の技術を摂取することを説いたもので、「朱子学を批判」し、「西洋の道徳」を取り入れることを主張しているわけではない。

問5 [24] 正解は②

- 資料文では、宋代の儒学者たちは聡明特達であるため、聖人の書から離れた自分の見識によって経書を解釈するとあり、これが②の1文目に相当する。また、朱子学に傾倒する人は「是非邪正の差別」が強く、「物毎にすみよすみまで、はきと致したる事を好み」「人柄悪しく成り」という部分から②の2文目も適当。
- ①「古代の語義を尊重」、③「経書の真意と自分の考えとを比較」、④「自分の考えを付け加えて経書の真意を捉えようとする」という朱子学の態度についての説明がそれぞれ誤り。また、④の2文目の「是非善悪の区別を無視し」という記述が、資料文の「是非邪正の差別つよく」という記述の逆になっているのでこれも誤り。

問6 [25] 正解は①

- ①適当。契沖は国学の先駆者。儒教・仏教の教えにとらわれない古典研究を説いた。
- ②不適。「儒学・仏教・神道を通して己の理想的な心のあり方を究明する心学」は石田梅岩が説いた石門心学のこと。

荷田春満は契沖に影響を受け、『日本書紀』『万葉集』などの古典研究を行った。

- ③不適。「感情を抑制する」が誤り。本居宣長は「ありのままの感情」を肯定した。
④不適。当時の封建社会を「差別と搾取の世界」とであると批判したのは安藤昌益。

問7 26 正解は⑤

- a. 中村正直の『自由之理』はミルの『自由論』の翻訳。
『私の個人主義』は夏目漱石の著作。
- b. 中江兆民は、「為政者が人々に恵み与える」権利(恩賜的民権)を実質的な「人民が自ら勝ち取った」権利(恢復的民権)へと育てていくことを日本の課題とした。
- c. 陸羯南・徳富蘇峰ともに政府の欧化政策に反対したジャーナリスト。陸羯南は、新聞『日本』を創刊し、日本固有の価値を発展させようとする国粹主義と、「国民の統一を意味する国民主義」を主張した。
徳富蘇峰は雑誌『国民之友』を創刊して、貴族・官僚中心ではなく、国民が主役となる近代化を進めるべきであるという平民主義を主張したが、日清戦争後に国家主義に転向した。

問8 27 正解は④

- ①不適。大正・昭和前期の国文学者・歌人の折口信夫についての説明。
②不適。沖縄の習俗・文化を研究し沖縄学の父とされる伊波普猷についての説明。
③不適。江戸時代の美意識「いき(粹)」を分析し『「いき」の構造』を著した丸尾周造についての説明。
④適当。柳宗悦は「実用的な美しさ」をもつ無名の職人の作品を「民芸」と呼んだ。

問9 28 正解は①

- ①適当。「外来の思想や文化」の「捉え直しや批判的検討」を行うことで、「他国とも共有し得る多様な思索を展開してきた」という第5段落の内容と一致する。
②・③・④不適。本文では、外来の思想・文化を「模倣することに専心してきた」(②)、「自国の価値観に基づいて批判的に検討してきた」(③)、「外来思想の有する普遍性を称賛してきた」(④)とは述べられていない。

第4問 標準 《自然の探究と人間の精神・社会をめぐる知の探究との関わり》

問1 29 正解は①

- ①適当。『エッセー』の中の「私は何を知っているか(ク=セ=ジュ)」という言葉は、

- 謙虚な態度で独断をさしひかえるべきだという懷疑主義を表している。
- ②不適。生まれつき備わる道徳感情によって善悪を判断できるという道徳感情論はイギリスのヒュームやアダム=スミスらが説いた。
- ③不適。自己の悲惨さから目を背け、気晴らしに逃避する態度を指摘したのはモラリストのパスカル。
- ④不適。ルネサンスの人文主義者ピコ=デラ=ミランドラは、人間は自由意志によって自己のあり方を決定できると説いた。

問2 30 正解は④

- ①不適。特殊な事例から普遍的法則を導き出す帰納法を提唱したのはイギリス経験論の祖ベーコン。
- ②不適。自然淘汰による生物進化論を唱えたのはイギリスの博物学者ダーウィン。
- ③不適。生得観念を否定し、生まれつきの人間の心が白紙(タブラ=ラサ)の状態であると述べたのはイギリス経験論のロック。
- ④適当。精神が、「対象を疑いの余地なく認識」することを「明晰」、「他の対象からもはっきりと区別していること」を「判明」という。合理論の祖デカルトは、直観の明晰判明さを明証的な真理の基準とし、精神のはたらきこそが疑いのような確実な真理であることを「我思う、ゆえに我あり(コギト=エルゴ=スム)」と表現した。

問3 31 正解は⑥

- ア。誤。前半のサルトルの人間観の説明は正しいが、「各自の利益と幸福を追求する市民社会」の実現について考察したのは功利主義。サルトルは、社会を利益追求の場ではなく、自己の自由な行動によって作り変えるべきものとしてとらえている。
- イ。正。ルソーは、社会契約によって人間は「自然的自由」を失うが「市民的自由」を獲得すると説いた。
- ウ。正。ホブズは、人間が「自らの生命を維持するためにどんなことでも行う自由」を自然権として認めた。

問4 32 正解は②

人は「自らの不正な行い」を「過失」や「不注意」によるものであると「弁護人」のように弁解したくなるが、そのときにも「自責や非難」「後悔」の念に駆られる。それは、自らの自由を行使して不正を行ったのだと意識する自分の良心の声(「原告としての自分」)のはたらきによるものである、というのが資料文の趣旨。

- ①不適。資料文では「自分には責めがないことを」「表明する自由」については述べられていない。
- ②適当。カントは自らが立てた道徳法則に自発的に従うことを自由ととらえた。
- ③不適。自らの行いが「遠い過去」になってから不正を「後悔する」わけではない。
- ④不適。自己弁護のために「道徳法則に訴える」とする記述は誤り。

問5 [33] 正解は①

ア. 『ユートピア』で私有財産制度のない理想社会を描いたのは15～16世紀のイギリスの人文主義者トマス=モア。

サン=シモンは18～19世紀のフランスの空想的社会主義者。産業者が支配する社会を理想とした。

イ. 男性優位の社会を批判し、女性解放運動の先駆けとなったフランスの女性作家ボーヴォワールについての記述。『第二の性』で「人は女に生まれるのではない、女になるのだ」と述べ、女性らしさが社会的につくられたものにすぎないと主張した。

シモーヌ=ヴェイユはフランスの女性思想家で、工場労働の体験やスペイン内戦の義勇兵への参加などの体験に基づく不幸論を説いた。

ウ. 自由競争がもたらす不平等を是正する「公正としての正義」を主張したのは、アメリカの政治哲学者ロールズ。

サンデルはアメリカの政治哲学者で、ロールズが想定する個人を「負荷なき自我」とすると批判し、個人を共同体との関係でとらえるコミュニタリアニズム(共同体主義)を唱えた。

問6 [34] 正解は③

クーンはアメリカの科学史家。科学者たちによって共有された知の枠組みをパラダイムと呼び、科学革命をパラダイムの転換によって説明する科学史観を展開した。クーンによれば、あるパラダイムXにおいて「既存の理論では理解できない事実が積み重なったとき、まったく異なる新たなパラダイムYがこれにとって代わる。よって③が適当。

- ①不適。「科学者たちの地道な作業の蓄積によって」パラダイムの転換が生じるわけではない。
- ②不適。世界全体を解釈する「大きな物語」が無効になった現代では、「小さな物語」の中での思索がふさわしいと説いたのは、フランスの哲学者リオタール。
- ④不適。個々の命題は知識の体系全体の中で意味をもつというホーリズム(知の全体論)を唱えたのは、アメリカの分析哲学者クワイン。

問7 35 正解は⑥

プラグマティズムの大成者デューイは、知性を問題を解決する道具としてとらえ、問題解決を図り未来を展望する能力を「b 創造的知性」と呼んだ。この立場を「a 道具主義」という。彼は「c 『民主主義と教育』」で、民主主義社会における教育の目的について考察した。

道具的理性はフランクフルト学派のホルクハイマーやアドルノらが、近代的理性を批判的にとらえた用語。

投企は主に現象学で用いられる用語で、世界の中に自らを投げ込むこと。

『幼児期と社会』はエリクソンの著作。

問8 36 正解は②

①不適。人間は「この世界に投げ出され」た存在であり、「死へと向かう存在」であることを自覚するとき、本来的自己を獲得すると説いたのはハイデッガー。

②適当・④不適。フッサールは、「実在すると私たちが素朴にみなしている」「自然的態度」を変更し、世界の實在についての判断をいったん「括弧に入れ」て停止し（エポケー）、事実をありのままに考察する現象学を提唱した。

「学問の絶対的确实性を否定する立場」（④）とは懐疑論のこと。

③不適。世界には意味も目的もなく、偶然に存在しているという「不条理」をテーマに作品を描いたのはフランスの実存主義の作家カミュ。

CHECK 主な現象学者に、フッサール、ハイデッガー、サルトル、メルロ＝ポンティ、レヴィナスがいる。

問9 37 正解は③

本文は、独立した学問としてとらえられがちな〈自然科学（理系）〉と〈人間の精神や社会の探究（文系）〉が実際には密接に関係してきたということを思想史を通して紹介し、「自然と関わりつつ生きる人間」について探究していくべきであるという趣旨。よって③が適当。

①不適。「最も確実な自然科学を模範として」という、自然科学に重点を置く記述は誤り。「精神や社会に関する学問」の再編についても本文で触れられていない。

②不適。「自然と精神や社会とでは領域が異なる」という認識は本文の趣旨と逆の内容。また、「人間に対する考察の独自性を際立たせて」という記述は、「自然の研究との密接な関係のなかで人間の精神や社会が考察されてきた」（第1段落）という内容と合わない。

④不適。「時代に左右されない人間の本質論」については本文に記述がない。